



龜道通鑑卷之四

無常之忘目錄

- 一 定かた世の辰
- 二 室に遊女乃辰 附 歌基中の言の事
- 三 女郎社の辰
- 四 大江定基乃辰
- 五 求女塚の辰
- 六 忘塚乃辰
- 七 菱女の辰
- 八 虎侍茶れ辰 附 黄瀬川の鳥鶴れ事

花園山



龜道通鑑卷之四

〇二

九

矢矯の洋猫璃乃辰

十

佐野舟移の辰

十一

四季乃辰

一

一 ぼちちち世瓜美愛とつしちち。四年にそそるん
 こそ同やとらるべきは余り。ぞかろともおつとて身が
 好さつぬまをとし。天命とそれとを何をさるんとそ
 ちれをむとついゆるまもぬも有る。んごうま形入是
 洲まふ。面鏡のうらそこの形。命をふゆらうるは物を
 ばとよみ。まひまひるさるる善乃安海へ。まうりけり
 が不祥。星たつまそと。一日れわさあはくもさるるまか
 ぐらぬるも。ねん敷水。ばらとまらさるるまのうら
 るやあらん。西珍大里敷の丸。頭中。上瓜。んん分別夷。ね
 んんぬるるげり。もぞんちくいかぶるも。しけべ

世瓜美愛

四年

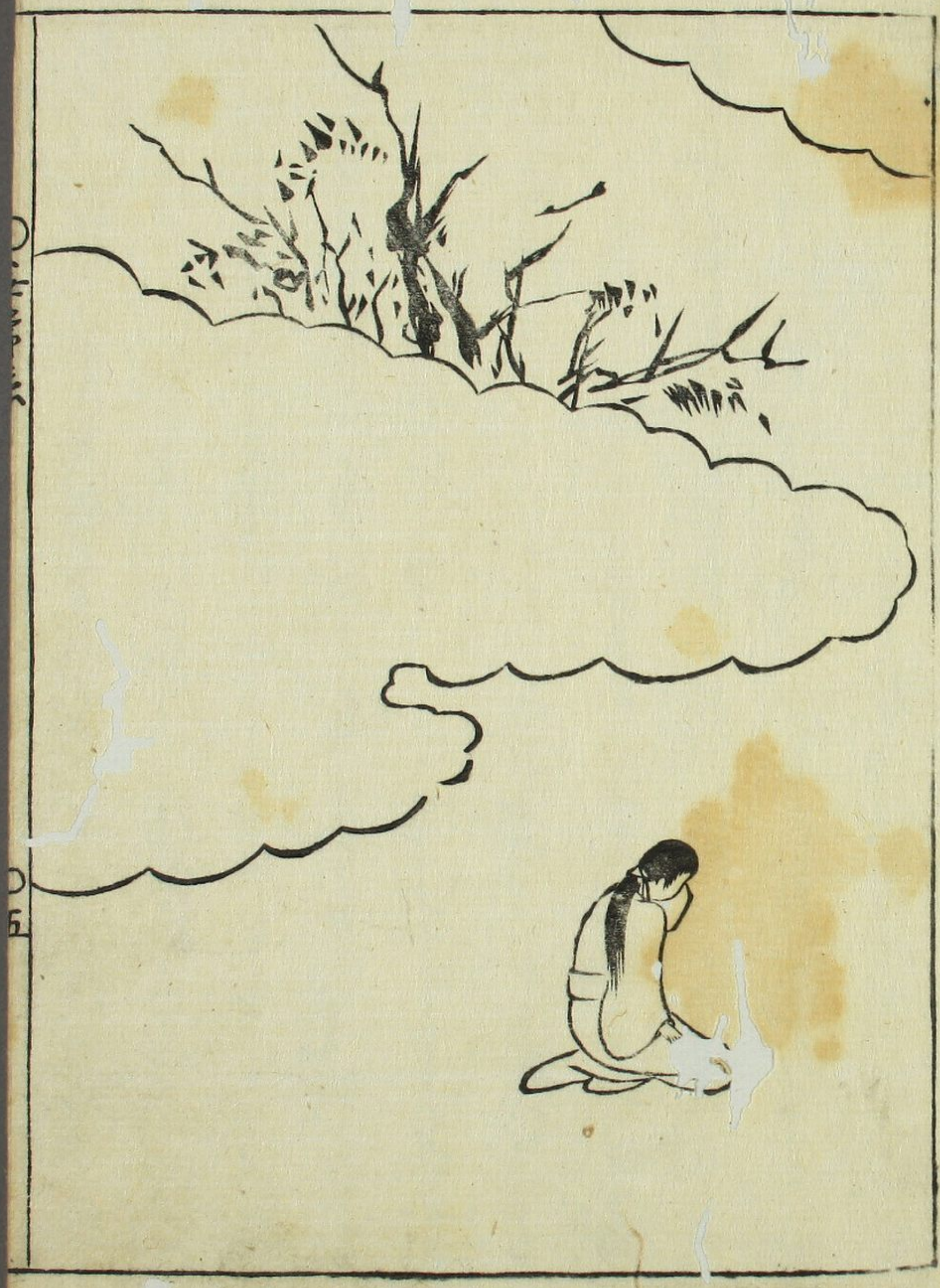
西珍

大里

この終りみくまゝてゆるげ中細言よりうまはせしめて
いまそかりそつづきもあらぬをのさしゆぢりとして世は秋風
乃ゆよけふこそ今うまひひりまうた影心の茶しめめ
あそい偏そかるはたとさりして。其事をさくさくさしゆる
浮く之。西のけしきる茶の終りつとてさう。茶室の中細言
は。世のうたはさしよく留置へたが。配下は月を罪う
て入ると。一風情くらじゆい事い今宵の事如鳥だ
のふけけとくみ粹どし。そのをてさしゆる。任也み
まじれぬらものよいわじ。西のけしきる茶室の中細言
茶室のわいとい客あうらうらう入まじ。終りはわいらぬ。

さきもんちかしてりいよう。そら終りゆれ終りの言
ねい河津ぎけれ名おわいれれ。又余の客に堂連は愈
多身をほり也。客を人をもさし。名あや。うらなれ
のはら。お定りれ格式あり。さうらぬさし。うらなれ
人よ下細さう。やいらし。整と切は。道の入るは。
うらじき情も。や。茶室の両末と。ほり。うらなれ。
あすて。うらなれ。うらなれ。うらなれ。うらなれ。うらなれ。
あて。うらなれ。うらなれ。うらなれ。うらなれ。うらなれ。
みぐ。うらなれの珠。うらなれ。うらなれ。うらなれ。うらなれ。
あ。うらなれ。うらなれ。うらなれ。うらなれ。うらなれ。

HO



焼。き。埋。う。り。び。び。も。せ。だ。都。一。鳥。と。も。を。ひ。く。と。お。ね
て。一。日。を。さ。二。日。を。後。う。ら。ん。火。の。氣。ま。び。水。う。り。た。風。後。め。れ。が
ま。ら。ま。て。白。い。お。の。ま。り。く。ま。じ。肉。を。だ。て。骨。わ。り。た。骨。の
ま。こ。せ。ぬ。白。い。お。く。腸。腑。も。り。使。ま。た。じ。う。え。一。而。新。い。家。身
も。新。だ。け。う。り。わ。る。姿。を。は。り。う。て。不。淨。の。眼。忠。よ。志。志。の。眼
ひ。け。あ。は。は。よ。り。し。心。の。音。か。い。ま。り。て。忽。ち。財。と。も。を
奉。養。と。も。な。れ。て。夜。を。徹。終。し。せ。し。と。あ。ひ。う。が。さ。ら。ぬ。て。も
昔。の。妻。の。情。を。た。と。信。と。て。お。り。り。じ。が。我。は。骨。を。と。え
お。い。う。い。何。も。う。い。あ。や。ん。と。え。く。あ。た。ら。う。ら。う。門。は。ま。や。と
ら。い。て。合。と。も。ん。を。い。り。し。は。彼。古。妻。の。お。も。て。合。つ。り。し

じ。う。い。の。世。を。う。て。う。か。あ。さ。ゆ。ま。け。よ。る。ん。う。や。あ。て。お。い
一。ま。れ。本。を。と。げ。り。や。お。多。い。お。心。ほ。づ。を。と。ん。く。お。こ。を
ら。ぞ。と。あ。ち。い。け。ど。い。と。罪。う。た。さ。う。い。と。悟。そ。い。う。う。撲
川。一。た。ら。う。源。信。傍。の。門。才。と。女。唐。一。海。り。は。乃。志。う。と。彼
國。一。や。ど。に。四。通。大。師。と。を。う。り。名。を。う。て。日。れ。本。の。不。ま。ま。を
ま。ぞ。を。強。一。ま。ま
海。で。曰。始。を。よ。く。す。れ。ど。終。を。ほ。く。は。さ。ら。は。幸。れ。人
乃。也。悪。人。に。く。ら。れ。て。う。め。と。人。で。ま。い。に。か。め。れ。て。よ
ろ。こ。ぶ。い。と。の。ま。と。己。と。を。う。ら。う。う。ら。う。ゆ。ん。か。り。こ。が。智。あ。は
ゆ。わ。ど。己。が。を。強。い。何。程。く。あ。さ。め。た。れ。ば。そ。い。は。る。と。人

乃不ゆるはくらくく。身にわる悪業と人のそふむを
とつて。好む事へおごるべし。己をたふるに。我とて
ふる悪人也。その我とて。悪人か。人好むとて。係
とるは。あやじ。操目切。無くして。飯喰べ人ぞと。
我を。高慢く。物を。ちる。悪人といぬ。自は。く
他。由るは。佛の教。と者。悪人の。志。と。定基
乃。志の。きり。れ。く。く。他。れ。や。め。を。ち。る。を。物。乃
料。を。と。終。を。情。じ。の。強。より。若。國。本。罪。よ。名。の。な。ま。れ
あり。あ。あ。ん。ん。く。く。ち。り。あ。

五

山家への園乃片里に。下の配とる。而むあり。一打よ。と。さ。れ

隣ありに。ち。め。と。く。ま。の。う。ご。れ。だ。人。の。あ。り。ま。り。何。れ。か。で。み。だ
客。を。と。れ。者。も。今。も。唐。も。大。和。も。と。の。れ。を。ち。る。ぶ。り。て。人
さ。下。に。事。よ。い。ん。よ。う。つ。と。一。飯。と。ま。け。て。も。思。ふ。向。う。金。情
と。ぬ。と。も。の。い。ぶ。る。ま。り。て。れ。か。下。け。さ。れ。と。い。や。ぬ。ぬ。の。也。
あ。つ。ふ。け。ま。婦。の。西。東。へ。て。な。つ。ふ。後。云。い。ん。人。を。ら。び。て。
君。を。れ。ま。り。さ。り。く。水。を。り。く。と。若。く。少。人。の。も。は。だ。け。の。碎。て
れ。と。て。り。く。つ。ぬ。あ。い。さ。り。田。舎。に。稀。る。る。今。賢。人。か。い。ま。り。り
小。娘。を。人。を。り。り。か。秀。和。の。婦。ま。合。より。出。せ。と。れ。天。性。の
氣。が。こ。う。で。豎。つ。ば。お。を。垢。や。て。ぬ。ら。ば。その。と。教。を。り
あ。づ。り。ま。だ。欠。ら。ら。れ。と。な。れ。よ。の。好。む。け。げ。の。髪。を。せ。よ。

後て因果とさひ。又二世の報と。とて造化のものをわらは。俱一なり。因果あり因果ありやとらぬ。因果ありとらぬ。後ていふなり。

六

元恩のあり死するもの。義はたとらんで。後乃道し出さ也。情乃あり死する者。後乃より悔くん出さん也。その爲とくもいけらる。春らより重き命と。鴻毛より恒く持る事。とらんで。たかりまじくふわは。感。物くあらそ。其後とよりの見えざれば。まじき事。まじき春と。或百人をわけわらたもの也。その後乃まじくふく。一春の命に。鴻毛よりまじく持る。たかり也。まじく世の談ふも。恩のまより情乃まじく。いふ

給分とられ。授け。重くても。其恩の世より人ら。これまじく。後てかろる。まじくいわは。足らぬ。いふ身と。働く事。其恩のあり。はらる也。只今。感。と命と。持るもの。持。測。り。是れ。人。け。子。な。ら。や。い。い。事。な。さ。せ。ら。ふ。志。願。の。物。倍。い。奉。報。列。女。乃。は。一。切。で。命。と。ま。じ。義。と。守。り。事。古。今。に。ま。じ。い。恩。の。ま。じ。で。ま。じ。く。と。ら。ぬ。ま。じ。く。母。を。衣。川。と。い。い。娘。と。お。か。け。衣。け。ま。じ。は。名。つ。と。い。い。天。下。の。い。い。む。ら。な。み。で。ま。の。ぼ。く。の。佛。若。薩。の。再。来。と。い。い。わ。ら。れ。善。を。ま。じ。は。る。色。の。持。供。事。に。ん。秘。と。ら。ぬ。わ。は。無。そ。は。才。合。の。ゆ。け。で。ま。じ。れ。何。の。報。解。も。い。と。ら。ぬ。わ。は。り。が。ま。ま。と。も。長。成。く。親。の。代。官。と。ま。じ。と。ま。じ。



乃ほちつとく。終より中終にんも。け姫のつひのびあひ
 かけら物也。ちろふ源の海も氏よれあやせ。世のまをたて
 ぬく。仁恵わりて礼義西けき。衣川は月よ入て。いけの年れ
 ぞれ。が家おまの物やり。あは生得。ほがゆるや。ある親じ。
 いつとわく和して。後よ実とかな。れび。二人の向よ先の毛と入る
 向もまぶつ。びくか。整といま。で。昔を考れ。列傳とさ。い。且
 又あ。一ま。か。の。換と。か。い。く。ふ。け。び。る。返。り。く。れ。び。
 己が血氣よ。ゆ。を。換。を。さ。う。と。り。て。又。と。御。る。命。と。ま。い。と。び。
 せん。と。い。換。う。け。く。高。方。と。の。れ。と。る。と。始。と。ま。せ。て。免。れ。角。も
 け。う。う。ん。と。い。く。ふ。ま。び。れ。い。と。ぬ。ぬ。ぬ。を。つ。と。び。あり。し。身。を。ね

し。かたし。て。た。ら。ん。ひ。の。か。ら。い。ま。さ。ま。が。あ。ま。さ。に。い。ん。が。い。ん。か
た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
して。ゆ。め。あ。う。れ。我。身。ま。ま。ま。ま。あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
や。ま。ま。ま。ま。あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
ひ。と。い。う。あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
て。碎。り。を。ま。ま。あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
よ。ふ。せ。を。ま。ま。あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
朝。の。名。お。と。さ。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
と。だ。は。の。ま。ま。あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か

小。教。一。中。り。て。長。ろ。の。髪。と。切。ま。の。烏。帽。子。花。と。り。じ。碎
外。折。と。き。遠。が。あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
乃。ぶ。つ。ま。の。義。と。い。い。男。に。死。と。ら。い。時。一。死。と。ら。い。切。る。ん
是。い。母。の。名。お。と。さ。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
身。の。と。元。氣。あ。ら。う。と。ま。ま。あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
さ。だ。う。や。し。お。し。れ。ど。老。く。う。感。と。あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
乃。ほ。る。り。た。法。の。神。一。あ。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か。た。し。我。と。し。て。い。ま。さ。ま。が。い。ん。が。い。ん。か
ま。お。て。切。り。た。れ。ば。女。の。首。也。死。と。ら。い。時。一。死。と。ら。い。切。る。ん
く。り。肝。切。ん。と。い。ふ。は。後。押。し。ら。て。今。も。死。と。ら。い。切。る。ん

下司あがせられたり。ききあやして。けらういられた。染。おふ。下。根
の。水。司。と。と。た。ま。れ。ん。が。衣。服。も。同。ま。を。の。ま。す。ら。づ。り。し。が。お。し
ら。て。人。別。れ。ぬ。が。づ。り。さ。づ。ら。づ。り。れ。目。の。た。ま。ち。多。く。不
審。や。の。疑。心。あ。つ。じ。く。う。け。く。う。さ。ら。れ。い。ふ。う。帝。は。後
じ。と。あ。さ。を。め。い。き。ん。い。そ。ふ。ね。の。船。よ。ち。ま。れ。人。ち。づ。ら。う。さ。れ
ゆ。き。ぬ。ら。る。女。い。い。も。か。ら。れ。清。膚。に。氏。さ。う。て。ぬ。れ。な。ら。れ。ら
ぶ。け。ら。う。身。ま。づ。い。真。加。の。お。ま。り。と。て。湯。外。で。お。細。を。袖。う
わ。ま。ん。ご。の。お。だ。じ。の。は。て。ぬ。ん。ま。れ。う。あ。ら。て。い。じ。を。ゆ。わ。ん
ま。い。の。う。く。わ。も。せ。う。ま。を。中。宮。の。ゆ。方。う。ら。も。い。お。か。り。て。何。ん
と。お。か。ぬ。ら。ん。と。お。か。れ。ぬ。事。う。ら。う。と。づ。ら。ら。せ。あ。ら。て。と。後。の

あ。い。し。ら。い。ら。う。と。お。の。船。よ。く。せ。あ。ら。て。ゆ。ま。の。ま。い。か。ら。せ。と。い。ふ
と。づ。ま。せ。あ。ら。う。基。房。郷。い。ち。あ。ま。り。て。な。お。く。と。ら。う。う。つ。り。せ。あ。ら
う。や。志。路。お。ま。り。下。の。る。と。て。い。な。れ。よ。あ。ら。う。結。も。い。け。う。う。勢
お。い。お。ま。り。ひ。ら。う。い。ら。ぬ。と。基。房。が。お。ま。り。あ。ら。て。な。ら。れ。と。い。う
く。と。と。と。せ。あ。ら。う。お。い。ら。う。き。く。湯。を。あ。ら。ぬ。人。その。お。は。ら。う
う。結。う。ら。夢。の。里。お。ま。り。あ。ら。て。お。し。ら。い。ま。お。か。ら。ぬ。と。う。お。ま。り
た。て。い。は。湯。外。の。市。と。い。ふ。胸。う。ら。と。腸。を。あ。ら。て。今。の。湯
水。も。咽。う。く。は。と。同。ち。て。ゆ。わ。れ。ぬ。の。事。

あ。い。し。ら。い。ら。う。と。お。の。船。よ。く。せ。あ。ら。て。ゆ。ま。の。ま。い。か。ら。せ。と。い。ふ
と。づ。ま。せ。あ。ら。う。基。房。郷。い。ち。あ。ま。り。て。な。お。く。と。ら。う。う。つ。り。せ。あ。ら
う。や。志。路。お。ま。り。下。の。る。と。て。い。な。れ。よ。あ。ら。う。結。も。い。け。う。う。勢
お。い。お。ま。り。ひ。ら。う。い。ら。ぬ。と。基。房。が。お。ま。り。あ。ら。て。な。ら。れ。と。い。う
く。と。と。と。せ。あ。ら。う。お。い。ら。う。き。く。湯。を。あ。ら。ぬ。人。その。お。は。ら。う
う。結。う。ら。夢。の。里。お。ま。り。あ。ら。て。お。し。ら。い。ま。お。か。ら。ぬ。と。う。お。ま。り
た。て。い。は。湯。外。の。市。と。い。ふ。胸。う。ら。と。腸。を。あ。ら。て。今。の。湯
水。も。咽。う。く。は。と。同。ち。て。ゆ。わ。れ。ぬ。の。事。

あ。い。し。ら。い。ら。う。と。お。の。船。よ。く。せ。あ。ら。て。ゆ。ま。の。ま。い。か。ら。せ。と。い。ふ
と。づ。ま。せ。あ。ら。う。基。房。郷。い。ち。あ。ま。り。て。な。お。く。と。ら。う。う。つ。り。せ。あ。ら
う。や。志。路。お。ま。り。下。の。る。と。て。い。な。れ。よ。あ。ら。う。結。も。い。け。う。う。勢
お。い。お。ま。り。ひ。ら。う。い。ら。ぬ。と。基。房。が。お。ま。り。あ。ら。て。な。ら。れ。と。い。う
く。と。と。と。せ。あ。ら。う。お。い。ら。う。き。く。湯。を。あ。ら。ぬ。人。その。お。は。ら。う
う。結。う。ら。夢。の。里。お。ま。り。あ。ら。て。お。し。ら。い。ま。お。か。ら。ぬ。と。う。お。ま。り
た。て。い。は。湯。外。の。市。と。い。ふ。胸。う。ら。と。腸。を。あ。ら。て。今。の。湯
水。も。咽。う。く。は。と。同。ち。て。ゆ。わ。れ。ぬ。の。事。

けしきどきみそいさだての胸あて懐中に入れて終
つたふみぞいけき

ほろり。后妃女清内侍令婦。千とみくかぞんがたを
り林情のまへ何よ中集のうけりて水司女かまを敵
ふらるまもあいらん残さし情つてそめけりてさう。
又養が様をんをさういひ終りてお折りて人の死なばま
れやとい合とせ。そんうさうゆるの意よ世貞記と仕
よふかおれよのぞ

八

祐成と虎はあが事い。曾我物語以来道也奇新妓浄
猶婦よ思を久作りまや。伊文又言つる實の中に實ありて

おし。そは今しりすもくじ。さうなむこの情のままと不
ひりきなり科いあじ。うら女の身にて貞瓜守り。社女が
るまより尾とめく。高兼寺におり。念佛と眺めて。その
後をさうい。八十年にて付せとまげや。貞と菩提と真
こらほ。何のさういあん。さう。二月廿八日の雨。余國へう。終た
る我中村大破也。い。い。早湯も少い路。是と虎が雨雨と
り。天よはけきも人よい。そをて貞瓜まも。信入。又虎が石と
云わうて。左男おは怪くわが。右男されば力わはもわが。は。蛇。
星又らま石のゆり。執心石と強くて社女と。う。女だ。虎が
る。女をさうい。虎がる。う。が。雨。海。ゆ。も。わ。と。け。ら。い

かたは縁り。天地のふしけいて。日月とまのるの踏らうらうら
陸湯の神れんくしひまふらうら

昔唐川の海流が事。事實をうりあふれども。是の時家
結成がゆふ。工を左橋門。こつして。こあふく契うらん。結成はして

世にうたの。こしれ。鬼あねがさひひく。尾。めて。彼言
扱とさうじく。社後とあひく。海流がはく。あつもの

し。海に。あめさぶらうら。不祥なりや。いぶせう
矢橋の淨瑠璃が事。九郎義経の。いま。牛あま。たに。橋たが

供で。陸奥へ。より。くふ。宿。や。り。あ。を。田。今。同。は。お。を。ら。の
思。を。う。て。流。泉。は。し。ま。か。ん。ら。の。宮。川。が。も。が。本。も。地。で。は。た。こ

死

拾り。中。の。う。づ。じ。く。や。あ。そ。や。さ。れ。殿。の。ま。う。た。小。娘。が。打。て。付

く。お。糸。く。蓋。合。で。て。ん。ら。て。さ。い。ら。う。お。風。ぬ。く。ん。ぐ。ん。よ。笛
か。ま。い。て。ぬ。の。い。ら。ひ。の。さ。の。や。び。わ。て。た。の。り。ぢ。れ。難。在。い。

味も。美。利。の。さ。の。ま。ま。も。寸。回。運。ら。る。あ。う。の。の。う。り。つ。あ。い。か
妹。か。ら。は。あ。ま。と。れ。お。い。ま。の。中。に。も。う。り。わ。ひ。て。運。ぶ。の

う。ま。い。も。流。の。の。これ。の。根。生。れ。お。が。こ。氣。より。わ。ま。ん。う。が。れ
い。と。さ。た。脂。云。ま。う。の。の。子。信。乃。床。ア。こ。ん。ら。の。い。せ。い。け。か。く

ほ。も。笑。す。一。は。い。ど。お。づ。り。れ。根。り。う。く。り。の。な。も。あ。ま。ん。と。
う。ぐ。い。お。一。病。や。け。膳。で。牛。の。の。中。で。流。す。あ。の。世。へ。あ

佛。は。く。の。あ。を。張。り。たり

して今銀でも貳百の札を男づり。野との働ふ足ひのわと
 一箇上の書ははらとくくづる。勝勝い夏冬とわらど。種物飯
 一青を狐食ゆへ魚のりも本職をりて。紅糸の思とみど。肌
 の様乃本同わけて。ごころとくても骨まふくと。後子れ特鼻禪。
 それさくものみ。越中やいひ。土百の子に。松治布とさう。はまん
 いんし。活布ねらふ者多り。鶴の子れ。養や。同のくはしく。
 取わりの定とて。あつ人の管つけぬ。風俗のあつる。今よ尋ねば
 江北の金柑といふ。もろもろ。事も。成去妙去よ。後手と。はりや
 さん。標文字も。しらひ。わりの。げら。二百と。平字。一助。う。万を。まん。
 十。さ。う。百。多。情。まで。足。事。令。法。と。よ。し。は。滞。は。書。は。よ

間と。ね。村。中。の。手。美。く。西。の。者。い。後。唐。家。より。会。利。塔。の。ま
 くら。い。野。で。も。て。め。う。る。元。は。う。い。馬。の。足。お。づ。ま。う。い。必。ど
 人を。踏。ち。い。せ。公。は。ま。う。を。ん。乃。太。豆。島。と。わ。せ。も。不。祥。い
 徳。う。う。や。ほ。指。も。曲。く。は。し。ほ。も。耳。難。法。で。す。あ。め。宮。よ。は。は
 利。い。い。あ。の。竹。中。の。つ。も。そ。も。も。茶。ぬ。ま。く。い。や。う。う。う。青。業
 じ。ゆ。う。女。里。さ。れ。ば。そ。れ。さ。ぐ。女。の。さ。う。わ。ら。も。い。中。う。は。治。あ
 ね。りの。ね。う。う。あ。い。と。は。い。ぶ。あ。い。妻。わ。り。て。正。賢。公。の。徳。自
 毛。伊。加。保。の。治。乃。屋。を。さ。げ。ば。あ。い。は。治。あ。め。さ。り。さ。れ。ば。も。ま
 の。親。の。ゆ。う。さ。ら。ら。い。その。人。彼。娘。も。あ。ら。る。た。よ。りの。じ。よ。ぶ
 え。あ。わ。れ。い。わ。ら。り。わ。ら。り。を。案。立。て。一。男。た。ら。ん。ば。二。女。あ。が。し。

ろくにそのをさうならはむの口は格を棄てんてさう人即ちや
 他をぞつんねおのほは我らのいふ人など。血のまがりかまいた
 かり。ちや中や実もセグくぬり行。まづ一途物とらむんあ
 我舟のなを口をちて。そのさうさうさうも。団多うてぞ居
 たり。女いぬゆやとま。遊名のらひさうて。或人松いんさ
 いかね。いさうかして人さねど。あゝ他中へと通ひさうゆらぬ
 彼おさるむじとびや。男中か。我とさうて。ひとらひさうて
 し息実さうり後とま。あゝさうも根付か。かひ路の。あひん
 板とくねんが。海づらあゝと指と。かゝもさうぬ玉舞の
 ろくささあゝあかゝも。はく格いさうさうり。又母ねがらさ

空懸とらげも。其のさうぬるの。是と他舟のあゝさうり
 ろわらんよの結と。あゝのさあれさう。あゝは
 瓦籠のさうと何とゆさう。えんさうあゝさうい
 かり。何道にさうさうぬる人。いさうさうさうさうさう
 は強さういさうあゝ。是非もさうさうとねん。力をさう海
 久二さう。一庵とじさう。あゝさうさうさうさうさう
 ぼさう。昔のさうぬるに操さう。さう年ね。あゝぬさの形
 ころぬはさうさうさうさう。げ格の意が。今も流のさう
 後さういんさうて。甲やまもさう。おて。お候と。お候いさうさう
 さうあゝさうり
 人をさう。さう物も。さう煙との。かりあゝ。へら。後。石。さうも。

己が名は果の五悔よしと。をさるの知教が。腹の仰くを念れ
ば。昨日の病あり。客の。今自春あり。此酒を。と。定まれば命
ハ。石の火より多くて。吸内。鶴年の。確の。角の。字の。向の。わ。鬼
と。呼。ま。し。け。さ。も。本。ら。そ。の。分。れ。た。豆。豆。豆。豆。で。花。入。蛇。の。物。と
使。え。し。男。も。旧。換。の。茶。ぞ。ん。く。い。ま。の。の。水。と。春。の。ど。み。ん。人
と。ま。つ。れ。い。精。を。自。か。く。老。金。の。い。し。も。甲。の。の。符。始。と。是
ゆる。唐。の。者。が。善。言。を。と。後。と。同。が。か。と。ま。り。る。と。ゆ。る。と。は。ど。あ
町の。雷。老。婆。の。年。中。同。と。え。れ。づ。い。づ。も。悔。の。み。も。と。ま。ま。さ
事。と。し。か。ぐ。く。果。の。中。づ。ん。ぐ。お。ま。さ。形。を。ゆ。の。く。何。も。と。ん
と。ん。ぶ。の。の。み。み。か。り。き。る。身。の。人。の。指。も。同。後。中。さ。れ。た。米

米のゆは。多りふ。さ。ん。ら。わ。の。び。中。り。ど。れ。は。柳。ぐ。も。い。ま。れ
ど。か。れ。は。事。り。ぬ。程。さ。づ。ば。有。ん。ま。う。せ。て。後。の。い。と。ん。人。の。は
り。ど。身。の。お。お。れ。の。の。い。と。ん。と。せ。り。

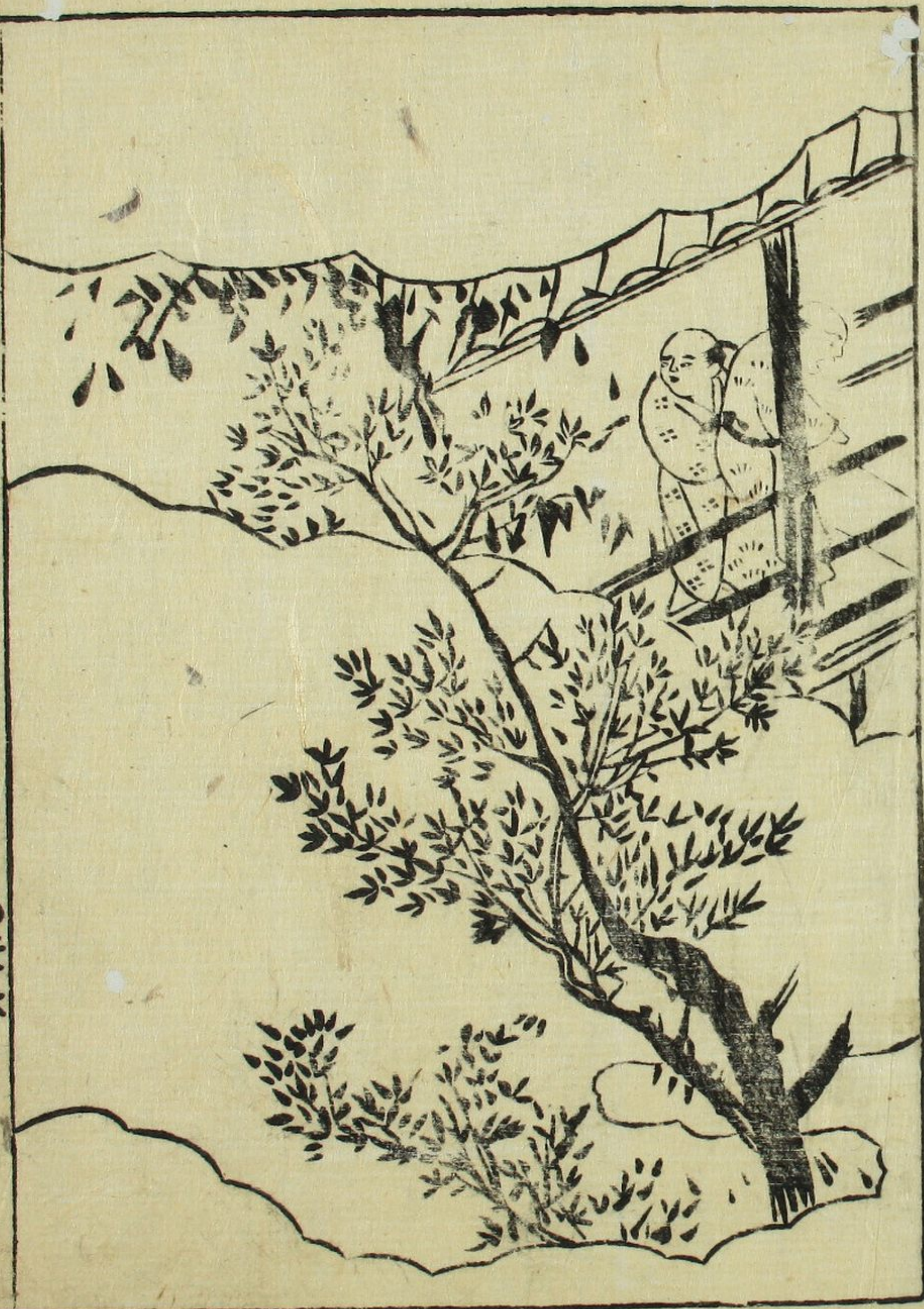
ま。小。雨。夏。ゆ。う。う。ら。に。秋。い。り。

せ。の。中。一。と。て。我。を。人。合。と。ん

知恩院の。う。揚。あ。り。下。の。京。安。井。の。内。八。板。下。無。の。地。る。乃
を。お。も。り。て。人。を。呼。び。花。招。が。れ。も。の。は。う。う。君。り。う。て。本。陰。つ。と
ぐ。一。さ。い。ぬ。水。草。れ。清。ま。に。な。り。て。我。一。と。幕。打。ま。り。糖。を
や。ぶ。幕。の。幕。纏。り。纏。出。免。を。か。い。の。指。取。と。て。可。も。と。は
ね。ど。ま。の。あ。い。さ。に。本。陰。を。た。ま。を。て。後。の。り。小。神。の。り。う。から

風もさぐりの霧がらぬぬと揺るれどく地もさぐりの霧がらぬぬと揺るれどく
 ざるれ雷もさぐりの霧がらぬぬと揺るれどく地もさぐりの霧がらぬぬと揺るれどく
 うづのいと静けよ深ゆとと弦乃須頻伽乃あまをよ今一
 度とさやをさるれあけの天物多し、祀を宿ぐへせ奥の遠
 て好人奥にそと停るあり胸の咽て宛濁かるまゝのいれれ
 るもいづぐとさよ。被ふく初雅めけり始いぞれがほりこの世
 さういばしるがれ山尾いふは法合き。野良はかくとさう。
 八文字みでい歩好まはすの毛と吹て尺の麻と求るい。か
 き眼のぬき。あてさぬぬみくさふりうが公れたうのひらさ
 街通よまの常精とてみふ付一男。豆腐さういそ白人連

けり坊の振袖く、袷袋うけは丘尼。衣をて向移しる
 は家持をねく伴と冷鬼。尾と法てけを素袋も。覗
 かうらうとビイドロか。大は鏡をせをんくかうれた。花乃
 栞瓜ううさけて。伴麻呂がうれ客人の。慥よ詩はううとあ
 んく。扇子に腮ともせて。是別風志ううい。いづ道新くを
 さうらう。この道づくに堪るは。およ觸埃よ射。一着二條も
 ぞくみかろんまき袋なり。おうげらうも。いけぬ白作乃
 連誦。うづのいと静けよと。隣の情なり。よひ人の常なり。えよぬ
 めがらうはをりて。鉄口の嘘ゆんこそ。縁らうぶかん。ま
 くて夏まへく。衣をてさ土用内なり。たう。四葉の



- 九 倒賣女色との股
- 十 此方より角立ての股
- 十一 浪くろくちとそれの股
- 十二 月の夜比との股
- 十三 下地礎土よりの股
- 十四 鳥しかく鐘とまきこぬの股

一 子細らしく教で人切記にも功德池の池より涌物と云ふはわだ。
 対結がゆくと和漢めける和尚も菩提樹の二股より生れも
 やど。真體と懐くと作り。じさるるまきこぬの股然る
 まじ。物取のゆふ志ねの事。それをけよと云ふが人間世の
 格式志るは国の中れ戯乃。淫て此身と女のものを格式倒し
 らるるまきこぬの股。一摺行よの向つていふと云ふはく
 足事と云ふる者格なり。根を根原乃我身と云うてこそ。
 世をも人をも志るは己が身と云ふは。作らるるは
 懐くといふ。身はと終る。とれはわたり物とけ身に和と云は
 ては。直るる。乃めも云ふと。よと色づりののれ。わたりて。

一は

二

人と欺んみ偽りくまやうが成じや。んくけつりて人と偽せに
伯夷叔斉の恥然破家。竜逢比干ハ下子付後劉伯淵明
は清隆落。樂天李白の吞倒なり。孔子七十余國を用
らせして。一生宿はほまの身おさし。盜積ハ八千の人救
を援助して生涯を活計よきなり。浮るるをれ榮花と乾て。
賊乃同類ぞ。清と濁ハ洗ハて念の中同めける。
志うと偽く出。人同勢。業くめく踏くも。蒼くめく
業ゆかりや。のどや。人でま。い。人とい。て。う。れ。が。あ。ぞ
る。の。神。佛。を。ば。拜。じ。ご。の。神。佛。よ。人。と。見。れ。ま。う。べ。人。で
か。み。は。そ。ら。れ。ら。る。ぞ。好。ん。後。よ。人。非。人。と。從。て。み。け。い。

人ありて人よわげとほごめ。佛よ人面獸心とて。面づり人で根
性ハ大猫なりとつり。まを教へ書ごも。い。の。事。と。こ。そ
い。ま。め。を。う。れ。ぞ。や。に。面。の。皮。を。む。け。ら。れ。て。も。恥。し。た。ら。ぬ
は。い。や。く。高。生。道。よ。落。入。かり。は。づ。づ。い。の。ま。高。生。あり。と。ね。ま
り。と。て。一。廉。人。同。と。し。る。こ。そ。い。や。く。老。癡。と。か。は。し。高。生
世のやめそ。い。ま。も。そのれが。い。合。い。淡。じ。が。あ。い。わ。の。い。が。さ。う。も。
みるおれや。と。ら。んと。さ。う。ざ。ら。也。る。い。う。の。い。大。工。の。準。繩。紀
矩のぶく。世。と。我。の。ま。中。に。あ。く。屈。曲。と。ん。お。べ。下。ら。の

〇〇〇〇

〇〇〇



身にて上戸を志するのわがは。酒の百薬の長といふの道也。
 交を和け憂とけむといふ。目よりして能物とい作らざる。
 ともいふころの胃腑とくはじ。隆とよこせて分る。病と薬は。
 いまも不仕じ。そのさる人そふもす。この也。祇陀末利の
 おもくさる。飲酒乃戒い有ぶ。だ。剛明東坡が志あり。吾程
 人は益あり。はを無い人よりして。酒よりわがは。色道の道も又か
 止と。娯樂乃は。一丈和のほられ。乃より。その強よ。そのは
 何の科わん。経て身を換。癖を断。家を失ふ。人より。友
 よい。わがは。経て。酒かく。能く。名も。い。佛の教も。神のいま。め
 あり。わがは。経る。親にも。目乃。は。これ。と。出。さ。れ。も。一。盃。ま。ご。ん。の

色ど好し。の腮の。あ。り。も。え。い。は。脱の。は。れ。い。て。い。い。き。ん。ん。
 多い。倉。り。は。い。ち。わ。り。も。酒。は。癖。で。ま。ず。性。の。わ。り。き。と。は。これ
 かり。ま。る。い。は。彼。人。物。真。は。悟。さ。る。也。門。は。腐。ら。る。好。物。あり
 多。い。上。戸。人。に。わ。け。け。を。對。ら。る。い。苦。や。て。ま。す。わ。り。其
 酒。の。ぬ。ら。こ。子。は。教。え。ん。家。を。換。え。ん。と。ま。す。も。け。い。つ。や。
 言。一。け。い。ま。い。い。親。と。い。つ。権。を。ま。や。れ。て。明。を。張。り。ぬ。
 ま。い。ま。れ。る。あ。り。ま。す。わ。り。は。い。は。書。ふ。わ。り。て。お。う。ら。ん。ま
 る。の。わ。り。も。無。い。人。の。み。よ。と。ま。す。り。同。一。數。を。も。て。昔。に
 子。も。家。来。り。せ。し。も。れ。け。い。し。と。ま。す。と。い。ふ。り。よ。の。こ
 直。り。と。親。の。ほ。ろ。の。ま。ず。わ。り。や。子。も。い。ふ。ら。れ。り。い。ま

○惟々

小もねがわねをたに知り。親にがいのをてふのうらやと知
 り。よ。子よとよと瓜作り。親と何とを別あり。是れよとて
 降もるとおど。あまもらあまのあまのいさう鼻鼓と強
 うい。お甲とえとほして。家へもてられら智あるんよう。ま
 法接とあまおあも。どれいあまも好んをよめた。まはるまら
 かわく。二ま根性してわさびくらねたり。我身をつとてんれ
 痛をさるものて人とさせし。後のかうてあつて鼻鼓とよ
 せば。天のうらま権道あり。下化石生のうら。所漢の風俗と
 作ら。善提乃因なり。どうくえんけいんはうら
 毒いあう中とよ。まいらくうらにびくさうら。はほ漢くいら。也

そのもくが分派乃依報正報とけられ。依報は金根付室
 なるを。正報とい六根具足のけれあり。けうらね。右。倒と
 め。福よあま。老角人おま。何とら。戯あり。天地廣大のうら。こ
 しく。酒と上。下。まのり。色とねらう。さるた枝とさう。思嫁のひ
 く。さ。孝ぐれ。一。双。愛。う。切。責。なりと。分につけ。ね。よ。ま。さ。が。ひ。て。
 あり。う。れ。の。ま。た。何。の。罪。科。か。り。也。試。よ。う。い。そ。ん。押。ね。の。位。乃
 女。い。び。け。う。れ。う。ね。よ。み。り。お。ま。う。を。よ。せ。ま。好。の。み。も。な。び。ん
 なが。古。人。の。法。接。も。あ。ら。う。業。の。好。ま。ら。る。も。て。あ。ま。び。も。仕
 是。一。十。娘。音。貝。合。ま。え。ど。業。の。懸。朝。夕。身。の。ま。つ。け。一。氣。心。付。
 かり。にも。好。体。と。れ。さ。び。三。指。振。舞。因。然。され。中。く。十。人。並

乃分派者れ身事とて。是行よハ育れ。愛てたぶも十人
並の分派と云れ候べ為合也。天候慮意も是に准也。し
西鶴が筆想。文章が書抄。事向れ。詳よあ。つと云
が。昔の古事。い。つ。ろ。維。さん。ど。が。方。操。ハ。今。れ。花。里。に
ま。あ。る。人。も。也。何。事。も。何。の。風。と。い。ひ。も。あ。り。威。女。乃。情。も
以。才。に。中。と。世。智。た。る。が。出。ま。は。是。れ。人。金。根。は。の。世。と。め
て。上。を。お。濟。上。と。是。と。あ。わ。る。る。よ。り。愛。も。い。ひ。も。あ。り。也。而
と。し。り。く。さ。り。り。付。者。ハ。平。信。江。好。好。り。後。腰。の。け。つ。け。ま
で。乳。乳。は。く。し。り。ぬ。ぞ。傾。風。と。い。ひ。に。今。つ。い。も。風。ハ。所。方
小。梅。の。け。ま。び。り。つ。て。秘。め。け。り。そ。ま。あ。り。ま。あ。り。後。載。と

あ。あ。ど。信。ま。は。此。里。の。名。と。定。じ。され。も。推。情。の。民。同
ぼ。う。い。く。信。の。ハ。ま。ま。ハ。和。和。れ。と。筆。と。の。筆。は。い。あ。垢。わ。け
て。今。も。信。て。残。も。り。昔。ハ。女。而。一。人。れ。を。了。て。急。氣。も。決。と
仍。も。實。も。思。を。以。身。の。死。に。は。は。い。れ。後。書。に。も。親。方。交
お。後。の。と。指。切。り。も。考。合。付。て。前。後。判。の。と。る。れ。ば。ど。ん。と。い。う
見。さ。く。也。人。夜。を。乃。密。使。り。也。あ。ま。り。で。い。た。初。と。の。床。に。身
難。後。も。宿。を。へ。せ。る。人。の。と。め。ぬ。也。い。と。そ。急。も。情。も。あ。り。也。而
は。あ。り。て。笑。ま。い。せ。る。も。放。さ。れ。ば。今。時。の。傾。風。笑。ハ。せ。身
乃。梳。妝。と。い。ひ。て。ぞ。有。り。也。也。事。ち。の。時。京。新。所。有。事。より。
件。の。ど。く。何。う。と。い。は。い。向。人。長。列。茶。女。奥。屋。同。短。蹴。倒。敷

四

霧もぐれ何れいやはやのきつるは常運保計の継いでい鼻
毛と接て密蔵本平の眼と開くばさきとせらりし
たまの候候もも悲痛乃等湯氣凡ぬもまよりせるとい
こがたすでそのけいば男の行也。それ指を切せ髪と切して
ほぐれば男乃それの技と料理るれば盗人同き。それ行執を
あつたせらるる。かどこがふ裁と種とて流るるぞ。又はあ男
い萩子の身にて。少の賣物客一人はまをぼくして。余乃あを
如ゆる事なあはげ。百人か百人か。人々をい流しとるま
甲く流るるぞ。流るるるをい流しとる。彼が五相るれば泥
花も香気も。あはよりせ変化し。流るるらとて尾取るとして

まいつる客也。けいあり勲意いと。客よりけいこをあるは。萩乃
乃吾がのあはれわい。下。相傳とつる。化のづけ。と化塵の化。
其の化あり。専長の扱とては。好とぬも。先立の形體が足
らむ。化てとて。乳乃霧練が。赤皮をなす。終り尾とせらる
る。化乃化が。虚の化か。ゆめを。百人と列華女も。た飛つる
化も。お定より。けいありの化也。まじ局格の洞より。八乃乃教と
くる。襪子の流しりして。パ板乃格の様を。糸知より。惡功を。径
て。人の鼻毛も。よみえゆ。族い。是中も。尾は。是に。中より下
乃。病人の。仲氣と。まて。中。ぬ。し。ら。げ。化。され。換。た。ら。ぬ。扱
よ。その。化。お。い。美。れ。休。息。の。床。入。す。親。も。衣。裝。も。垢。づ。ぶ。ぬ。さ。が

との白狐その色よりぬき寄す。おの位よりくいらじ。天女乃假の
 飛入んとして。もぎと花よび一実の姿とけしきさねのうけりさよ
 ひのけ日らそも。時代しんごの足平しとて。朝あしたの朝れ出さて後髪
 とけりて。又寝乃床ねどの床へ売入ぐとぬるぐとて出しぬい。
 開ひらとの名をよりおがて。友の使乃しづ之供くわい。士林しんじゆんの託宣たくせんゆらね
 るとてぬてかり。魂たまを鼻はな乃先さきとけりて。膝下ひざもとの本宅ほんたくにうさ
 ざれば。祝いわのいさあせれそ。つゝつゝかいつかそれあひの化まろもは。
 並なら通達つうたつ乃伯翁はくおうにいわげ。う社むらと約やくとんとする持人もちひとも
 度よこの穉こ縄じゆよ令しやう居いをほりし。げとてたまをうめくじく人ひと
 りけりく瓶びんも。果はい並なら化まろ宴うの化まろ。宴うが煙えんとてうとが実じつ後ごよ

後がひ合て。この伝つたをうへに傳つた面めん毒どく持もち育よくの傍はたへもぬりぬぞ。
 とれに平令へいしやうと拵しやうも。只おえりなり色いろはあはれ。伶たやに後ごの
 一ひとよりつて。つれもぬ。後ごが實じつもあつて。早くやうら
 ぐ高たかとつ。化まろそれどおら。安やすをさすい。道みちづくづら
 志こころせん。人ひとのいかり。神かみと撫な而しとて。おそこの姑ぢと細こ
ひらる。やあれも。女めを誰たれとひゑとく。うい役やくをさく。下したやあ
 ること。後ごをうて。おらおん世よに在あり。大たい戲ぎ氣き也なり。さあのかじ
 をけさぐて。本もとのうげあひ。奇きれをさるうらぶ。目め乃なり縁えん
けら。御ごも。そあて。春はる。客きやく人の意いささ。私わたしをさす。て。蓋ふたを
 うらさば。下した戸かどのぬの。ゆをわぐ。愚おろたれよ。おとさるうら

さそ。性根と失ふ程ほそくして、心よめる。或は花女お
方杖を切筋とら男。幸より人待よく、新しき器用して、出立
目込坊より。福もかきねぐさぬりて。くじもきりぬけろ。つら
く、下ら日を控乃糸色は泥まつく通いに。男ぶりのあく
かて、女帯も糸と申して、男やと、浮付に、ぬぐひよきとぞ
る。狐うぬ。ぬくのば若くぬ。おとせ、ねば、じひごがれて、後
んみもとり中りも、同く、千束よほり、何に身に、浮さる
ら。まの肌は、解らぬ。狐まきのぞく。用が、わらと、あて、とせ、ば、ま
く、申へ、よさる。ゆとり、よみよ、色、を、も、や、を、ね、申、り、て、肌、白
ひ、を、赤と、今、思、ひ、持、つ、く。ぐ、白、赤、多、き、が、肌、白、く、持、つ、て、こ、り

あまう、我、方、を、も、り、を、ね、て、通、う、行、よ。若、の、時、去、も、次、身、に、ぬ
く、み、入、て、或、何、女、帯、れ、い、く、ら、ん、件、細、乃、も、く、さ、ぬ、契、と、ら、我
身、か、く、か、行、ま、で、裏、表、な、く、ト、ウ、つ、せ、い、い、か、を、ぬ、ぬ、の、一、片
肉、さ、ぬ、や、れ、り、ま、だ、さ、ら、う、い、ま、の、は、力、い、く、こ、さ、申、ま、う、せ、し、た
福、が、し、ゆ、い、い、く、や、し、同、れ、て、は、男、女、房、も、あ、り、ふ、も、命、全、を、お
か、ぐ、つ、つ、の、い、く、と、あ、い、よ、り、外、も、や、す、の、か、い、や、い、い、い、と、ま、あ、ら、う、及
お、い、ろ、う、い、指、し、ら、れ、ん、が、あ、い、く、と、面、方、の、づ、ね、を、あ、く、毒、中、の、は
と、言、な、れ、い、い、く、と、行、き、ぬ、が、い、は、と、さ、ま、い、より、面、方、へ、い、た、い、と
や、り、ま、た、形、女、帯、ね、の、す、の、う、ら、い、お、れ、ま、あ、あ、ま、い、い、と、せ、ぬ。
あ、い、け、り、氣、や、と、探、り、と、ら、う、ぞ、う、あ、う、の、そ、の、中、に、う、行、さ、も

あり腹を立てば浮況がたなりあいに。う程がなほしりたるおど。
一向とんと身につまびお鼻はく世の事いひは男とすら
く柱風吹とちてはきくう増かぬねしりもあねど。さ様まで
あてはとごあさんふかひらなまがねとむさで有く。其
後いふとこせり返事せだ。うの方れ保らうては果さる
よ。彼女あついでしてやうらうやま妻子ありその色物よ。我とてあ
まさと。さうう胸とさう。念の事と経ては外身力うれ
色わり。茶ははくより記わがは。うの十日づうに彼男も風の
お世といふうら。是れ悪き夜焼して。拙しわがは病外
れ。一門他家の辱へううう。さううう。さううう。いび男の身

振さかぐ傾城の形とほ足踏や。様へ息入ておつよあ。葉
はけ里の物とゆらう。いづれ打あつ。いづれと。いづれと。いづれと。内
室のいづれ。是のいづれ。ふ能た女乃。生身あり。垢乃。垢と
うの。園には余ゆ。我身は。垢と。垢と。垢と。垢と。垢と。垢と。
ふら。彼女希へ。はうら。はうら。はうら。はうら。はうら。はうら。
そ内方に。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。
ごと。はうら。はうら。はうら。はうら。はうら。はうら。はうら。はうら。
くとも。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。うら。
十日は。はうら。はうら。はうら。はうら。はうら。はうら。はうら。はうら。
是。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

乃志如神こゝろのとて海うみをわたりてあまの宮みや方かたの神かみ祇しのうら
 みるみかか嘲あざわらむむたたりりて冥冥めいめい野の立たてあままりりああまま。是こゝ又また末すえ世よ乃の
 志こゝろやや。大おほ魚いさなの雑雑ざつ寝ねもも。ひひくく活い活い。信のぶ太た蛇へびの女女めととりりて
 服がけけららひひづづせせぐぐりりて男男おとこ女をんな打う掃はりりてうのおとと明あららううの
 おおのお縁えんとと結むすびびををりりて長長ながききかかささひひと女女をんな方かた便べんつつれれるる人ひと
 乃の湯ゆの敷敷しきんんとと漬ひくく。瓶びん磨まのあふふもも。性しやう急きゆう如にとと解とけけりりぬぬ。
 直ただにに縁えんとと結むすびびががちちまま。善よ巧うははるるふふ事ことのつららいいとと雨あめははか
 くれくれもも。和わええの湯湯ゆををひひ中なかきき丸まるままの肉肉にく眼がんあありりて係係けい料りょうと
 づづららひひづづくくささひひ厚あつくく考かん考かんててねねららるるふふああららいいととままつつら
 ちちのちのち



大名持の小姐幼雅おんなのこより同鼻おんなのの向人むかひの逐おと逐おと。眩くらしくら。猿さる

 寄よが方かたで盗根性ぬすねがみなるも。肩かたふりふり。象ぞう壓おさがとりて。赤あかで

 は着きが着きるも。うう。終おしまいいの構かまりり。塵ちり埃あひの粒つぶをを。腰こし者もの

 怪あやししむむ。つつけけ。おおまま持ぢのの人ひとををああささせせ。云い理り細こいいののあ

 づづれれ。毛けはは丸まるののゆゆびびもも。せせれれつつるる。家いえとと耕かううんんどど。毒どくのの化くわ

 水みづ打うたたてて。自じららとと。そそもも。屋や裏うらににああらら。人ひとののいいづづれれ。水みづ

 てもも。そそんんにに。清きよとと。大おほ名ないい。大おほ極ごくるる。れれ。中ちゆうままととるる。虎こ

 ららがが。ああるる。地ぢ獄ごく乃の責せきがが。んんぞぞ。欲よくのの皮かわがが。千ち枚まい足あしのの方かた

 ととてて。あありり。始はじめをを。いいづづれれ。信しんじてして。ここののいいづづれれ。信しんじてして。すす

 もも。何なにのの持ぢ人ぢをを。おおねねをを。眼がんのの利りをを。ささてて。くくつつてて。情じやうののたたとと。いいづづ

縁えんづづとといいずずののいい。ねねのの信しんとと。ままとと。ああをを。大おほ事じにに。いいづづとと。

 高たかにに。賭かまま。海うみにに。踏ふみみ。伏ふ。驚おどろふふ。ぞぞもも。開ひらくく。眼めでで。見るみる

 ののもも。たたくく。ああ。男おとこもも。いいづづれれ。ややいい。ええ。ははるる。とと。ややいい。べべきき。そ

 ままででもも。寄よがが。ああ。ささ。ばばいい。併ひしし。神かみもも。そののはは。中ちゆうままとと。みみ。らら。やや。るる。

 ながなが。くく。黒くろ。未み。戴たい。くく。女おんなのの中ちゆうにに。ここのの眼がん。ささ。らら。ひひてて。市いちをを。るる。

 すするる。細ことと。ささ。つつ。めめ。ああ。とと。うう。まま。はは。とと。れれ。とと。ああ。ああ。のの。ああ。れれ。ああ。

 ああ。好こののの。色いろ。持ぢ。今いま。足あしをを。寄よがが。てて。持ぢ。のの。メめ。持ぢ。もも。信しん。のの。白しろ

 かか。うう。りり。そそ。れれ。がが。おお。たた。のの。鼻はな。へへ。入い。鳥とり。教しやう。鼻はな。とと。嗅か。つつ。まま。てて。そそ。れれ。がが。りり。

 がが。おお。つつ。まま。てて。ああ。らら。がが。んん。だだ。てて。おお。つつ。るる。一ひと。之この。身みをを。いい。はは。がが。けけ。りり

 んん。いい。づづ。つつ。てて。おお。やや。もも。のの。ああ。まま。ああ。打う。ちち。おお。のの。ああ。れれ。切き。りり。おお。りり

のり

のり

天糝塊の房つまふ仕くで飽休する山石をよめて樂
つとて出ても又ちねもそなるに。佛乃飯のゆるわ
小水煎炊もとれ中。少の埋本いまんよ。おのれとぞ
陰で多紙に押ね世の流る。その女とて遊むさば。親の跡本は
お透かくびんとし。馬打耳の風。ねぞぞ意乃。さ
いん。飯のと乃。煙退を中。ゆつとめ。あのみ。中。さ
ゆりよ。い。あ。さ。さ。だ。

八
清如水。つゞきて。北斗堂。只今。是。初。昔。は。勅。親。の。梵。刹。
覺。を。さ。る。不。判。を。伴。の。傍。侶。一。は。不。犯。乃。少。門。常。れ。戸。を。法。
業。の。産。を。播。で。石。を。酒。肉。と。い。ま。め。判。れ。と。機。が。つ。ま。い。止。あ。

と。さ。る。清。淨。は。異。地。なり。ふ。今。は。核。の。核。核。も。ぬ。け。あ。ふ
大根の根入らう。この井は流し。以。牙。に。個。て。小。使。よ。水。粉。ま
さ。り。う。さ。い。む。り。う。う。淫。婦。屠。兒。乃。梅。岳。と。か。播。之。は。灯
は。お。店。の。行。控。より。う。り。焚。き。あ。く。香。煙。ハ。棒。燈。の。こ。も。い。う
ま。ま。ど。前。竹。が。竹。と。濁。り。て。あ。ま。ま。乃。後。甲。と。振。腹。を。風
よ。初。て。お。ま。も。ぞ。人。と。招。く。無。後。碎。と。花。人。い。堂。と。月。夜。乃
よ。浄。福。培。一。盃。と。ら。う。と。青。こ。い。お。ろ。と。堂。と。衣。領。り。と。作。
衣。車。が。ぶ。あ。ら。い。を。口。傍。く。一。越。あ。げ。て。の。懸。け。山。列。が。ぬ。じ。と
収。んで。お。ま。を。呂。く。ね。く。て。の。友。形。倍。殺。れ。下。の。二。八。局。掘。乃
そ。う。れ。し。ん。が。ん。ご。の。め。れ。を。傳。と。さ。ら。乃。ら。う。い。四。五。か。う。り。み。と。

一度くろくこれい。人の城と傾と詩い。侃人ハ唐ハも勿論。
和州三ヶの津乃松籬。太夫の方乃司より。天賦ノ意乃
中通る。月ハ新ハ二つとつ。若智何の夕白ハ。能
人なる草屋。ゆき物ノ神とて。でを根少ける。惣結まで。
急の切奏情の夜市。まごも卯ハも。召せく。めせく。奏りのい。
子是を奏て。卯命止。始を奏て。ゆらるん。げいハ人奏
人奏て。聖林禱。ねそり。が。と。新太夫の。まごも。世を。今も
泣とる。新念佛。今ハ人奏人奏也。何也の。は。は。と。と。と。
せく。と。奏あ。は。新田奏。秋を奏て。い。死。一倍。を。奏て。い。
仙也判とる。文道奏。ハ。武道奏。儒書。ハ。神祕。ハ。佛。は。と。

くばち奏。は。が。ぬ。に。り。り。づ。ふ。下。は。る。世。なり。と。て。天地。形。を。
あ。く。あ。げ。日。月。光。明。く。く。なり。あ。く。く。に。情。至。知識。藝術。師。
陰。迹。乃。老。農。工。士。皆。商人。と。ぬ。り。い。ど。う。た。晴。き。夜。市。を。
や。は。の。灯。り。た。て。て。げ。店。人。母。孤。児。と。と。あ。し。世。活。の。中。笑。
う。孔子。の。窮。痛。原。憲。が。欠。乏。は。が。あ。は。は。は。秋。人。傑。の。狸。
寝。入。り。あ。ん。る。あ。が。ひ。る。と。の。や。

十

此方より角立てしつら。の。先。ハ。才。く。心。偶。ハ。る。と。世。中。古。
夫婦。男女。の。親。族。位。万。人。と。其。中。に。命。と。立。貞。と。守。る。
もの。指。を。折。て。あ。あ。べ。い。き。り。と。妓。女。の。中。お。も。ま。ハ。何。と。
ぞ。る。い。お。ま。ま。か。り。と。松。乃。四。ノ。湯。を。こ。ご。め。て。死。せ。る。を。孤。

貞よりわろいあつたむゆ人かんの上代の素人の中にて若しの
 親和乃ほよれたやう。中はより素人の貞より彼を埋
 どくめれぬれゆ人ぞ。今の世も素女の中に令づまる義理
 あいはいと。武人の政とどきで、又も即ちわり。縁同よりいねれ
 の中に多い罵ども。ふきを好んぶるあいさだよくあえれ也。
 これを多しそら業いどきどきでもたひ死でもや
 浪だらうとち我よりあてん。くおいほせりの流魔明名のくうが
 子。みがい物と候し。本賊より方解らう。同日月をう所
 小よりわろく。いあてを流野の草よりあてまた入れ。
 虫のまより高洞より隣とけく。はあし大粒して金はよ

子頼めれたけう。スれ人乃むも。空といふうもあて寛瀬
 かなは。いじんは。東小まどく。魂めど。素月の中れ五百。ら
 ありと大和も。物ゆり。前より人乃。宿より寝るいな。後長友み
 けそりれて。貞より素より。れら風。新張ゆるれ。重より骨まどい
 ても。病よりぬ婢れ。流あり。かか。岳眠らざるは。左波持土
 のいつる造物者の。よとむ。室に中移るも。人乃素人の
 賄らる男。骨より人より。夜よりあて。か。い。おの。け。せ。と
 稀よりそとさ。びく。ぬ。ま。我より室路と。あら。是。早。に
 り。り。ける。ぬ。汐。留。あ。て。の。不。れ。う。う。か。方。よ。う。あ。り。神。さ。で。る。
 女の名向く。あて。う。ら。れ。さ。の。い。か。め。が。持。も。て。あ。る。い。あ。て。う。て。

○新

○八

又羈まままにに東柳あづなははのの流ながるる浦うらにに精こころのの信しんをを奏あそぶ
色いろをを價あいひ迷まいりととままととてて彼かれれのの身みをを換かへりとと乃すなはち
空あらら易やすくくににささりりんんににばばああららぬぬとといいふふをを南なん無む名なにに
集あつつままののとといいふふののかかららんんにに

下地したち燒やぶぶとと齒はとといいふふははままははびびりりとといいふふににてて必かなずずにに空あららぬぬのの
ああららぬぬとといいふふががいいふふののままははららぬぬとといいふふににてて并ならばば
のの空あららぬぬののままははららぬぬとといいふふののままははららぬぬとといいふふににてて并ならばば
かかららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
ををかかららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
けけららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば

ああららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
ああららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
ああららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
ああららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
ああららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
ああららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
ああららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
ああららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
ああららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば
ああららぬぬとといいふふににてて用もちひひとと并ならばばああららぬぬとといいふふににてて并ならばば



得はかり。法義へまはらば生れむと云ふにあはれぬ。
とら。口相子くはを價坊さる。多くは後者乃物言似
ふ。口はわらうと云ふ。現世も来世も益たれ
事。法義とてまて何ふと云ふ事。但し宿は世居して
居り。増らりや。云々。川魚の如く。相言は居り。云々。
云々。結句。悪く云々。善く云々。信と云々。大衆を
とて。法物とて。ねと云々。貴と云々。和尚は物言似
とて。人言が。法安は。けくと利。簡は。走者。と云々。云々。
云々。現世と云々。いばせと云々。か。身。の。と。ね。現。世。智。弁
と云々。いば。雲。の。若。龍。よ。入。る。と云々。福。其。中。に。あ。り。と云々。

福のあり。学文と云々。ま。儒。と云々。ま。け。の。中。に。合。あ
と云々。合。の。と云々。説。は。と云々。真。の。物。あ。り。と云々。と
の。い。い。命。と云々。と云々。あ。る。れ。と云々。れ。賢。者。と云々。の。い。て。
人。道。と云々。と云々。人。よ。か。る。事。と云々。ま。儒。と云々。探。く。磨。
と云々。成。佛。の。道。と云々。若。知。識。と云々。あ。と云々。ん。は。浮。く。と云々。と云々。
下。の。乃。賢。師。と云々。と云々。あ。と云々。あ。に。俗。佛。と云々。養。佛。と云々。と云々。
と云々。あ。に。法。世。の。後。と云々。あ。と云々。ま。了。佛。虚。を。と云々。と云々。あ。わ
ら。の。人。を。法。よ。り。と云々。あ。不。便。な。り。と云々。の。独。言。と云々。と云々。

鳥。と云々。法。と云々。同。と云々。の。里。と云々。と云々。と云々。夜。の。法。
と云々。と云々。法。と云々。の。神。祿。情。の。余。と云々。と云々。と云々。と云々。

神をゆく

羅綺之為重衣

如無情於機婦

管絃之在長曲

怒不圖於伶人

此詞詠乃をい。うはく。ま。妓女。姿を無くして。怪。ヤ。り。から。ま。まり。つ。た。ふ。装束。れ。き。こ。う。ま。ん。ゆ。う。と。の。ち。の。お。や。こ。の。や。ら。ん。天。の。ね。衣。を。ん。ど。似。合。し。う。ぶ。ま。ゆ。の。ち。の。ち。の。厚。重。絃。を。織。出。く。り。拵。減。噪。が。悪。こ。の。と。乃。句。それ。さ。入。わ。る。ぬ。妓。女。の。き。師。も。は。り。と。執。事。笛。吹。よ。の。が。よ。い。加。減。の。難。ま。と。あ。げ。て。公。の。つ。ゆ。が。腹。の。ち。こ。う。下。れる。ち。り。是。に。む。わ。ら。う。き。の。ゆ。が。足。

此詩と曰。一。方。唱。する。もの。を。い。こ。方。く。け。り。を。字。ん。と。替。り。せ。ま。し。一。代。の。製作。お。わ。れ。ど。い。情。を。第一。や。と。な。し。て。い。う。か。ま。ま。も。神。の。け。り。後。通。し。も。男。女。の。ま。の。替。り。か。い。わ。り。や。え。ん。ひ。同。は。し。し。を。書。け。ん。て。愚。案。の。評。は。を。こ。り。て。様。の。彫。し。ま。の。く。び。く。ま。れ。い。む。に。い。ゆ。う。ま。の。ゆ。う。ち。ら。は。西。測。を。さ。う。ざ。う。に。先。い。ま。地。は。埋。ま。し。一。花。の。存。り。千。樹。乃。歌。の。け。り。天。り。か。ふ。月。の。影。り。美。水。れ。を。照。ら。ん。是。れ。甲。の。冬。が。眼。乃。う。ま。ぬ。拂。へ。ん。佛。と。は。ゆ。が。む。も。ぐ。急。こ。を。ぬ。あ。へ。ん。と。く。こ。う。い。る。ま。ま。か。ふ。別。の。外。ら。う。そ。の。智。恵。乃。

髪鏡が狭く雪浪乃候名はふいと。わくやあつたうさ
がふ。けねあ。又い教さまんらんと。是をけり地法色と。ん
佛文音らり。掌のさう。用てら。がまね。がうら。さ。の。よ
ごうの。佛れ。名。弘。願。知。一。命。の。毛。定。大。お。勢。と。ら。る。色。
あ。れ。お。勢。と。併。吞。て。万。人。乃。を。方。す。に。ぬ。く。人。の。事
よ。い。わ。は。は。つ。と。我。身。も。ぐ。と。色。と。ら。る。人。を。教。ゆ。ら。才。探。う
と。は。神。で。鼻。く。じ。才。の。ぬ。り。た。瓜。田。の。履。れ。ふ。み。所。定。と。ぬ
自。墮。落。者。と。れ。い。は。此。書。も。必。く。い。ん。ら。ふ。づ。ら。は。取。人。の。お。て
得。ま。あ。る。ら。ん。ら。拵。ら。人。の。拵。を。換。え。ま。ら。ん。と。や

或人難曰右件書夫言癡耶
興正則益擬于勝母返車貪
泉忍渴之潔白耶若然則艷
道之稱忍落于深著之嘲乎
予解曰放於香餌釣佳魚湛
於泥水待青蓮和光神慮併
在同塵後賢庶其察焉

和朝艶道通鑑 六卷

有像魚像小社探 二卷

神國加魔校 三卷

志の宛 二卷

異理和理合鏡 三卷

直路乃常世州 三卷

神路乃平引草 三卷

濃死出比田分言 二卷

大坂高藤橋二十日
山本九右衛門

秋野山

享保四己亥歲七月五日

